

4月 今月のお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

さわやかサロン

日時：4月5日（火）13時30分～
内容：ごきぶり団子づくり
害虫を駆除して快適な生活を！

みんなの楽級

日時：4月10日（日）13時30分～
内容：開級式&いちご大福づくり
持ち物：エプロン、三角巾、マスク
「季節のおいしい甘味、作りませんか」

事業は、感染症対策を充分行ったうえで開催いたします。

ペン習字(いきいき)教室

日時：4月18日（月）13時30分～
内容：「絵手紙」「実用的な書」など
準備：筆ペン

異動のごあいさつ

4月の人事異動により、やまびこ人権文化センターへ転任しました。さわやか人権文化センターでの2年間、地域とのつながりや人権啓発事業を大切にしてきました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。大変お世話になりました。
上 口 俊 一

4月1日より、さわやか人権文化センター所長として勤務します。一人ひとりの思いを大切に仕事をしていきたいと思っております。ご指導いただきますようお願い申し上げます。
山 松 貢

みんなの楽級の閉級式を行いました。

今年度より新たにスタートした「みんなの楽級」。コロナ禍の続くなか制約はありましたが、感染予防の対策をとりながら様々な教室を行うことができました。3月18日に行われた2021年度の閉級式では、みなさまよりご意見を頂きました。



閉級式で出された意見 (抜粋)

- 平日の昼間だと仕事で参加できないが、日曜日に開催された教室に参加できて良かった。
- 早めに日程が分かれば、仕事の調整をして参加しやすい。
- 平日の夜に開催する場合、時間が19時30分からだと出やすい。
- コロナ感染予防のため料理教室などがあまりできていないが、対策を十分に行いながら食に関する活動をぜひ取り入れて欲しい。
- 若い世代の方たちにも参加していただけるような内容の事業をして欲しい。
- 2022（令和4）年度に行ってみたいこと。
⇒食事やおやつをつくる料理教室（いちご大福づくり、飾り巻きずしづくり、韓国海苔巻きづくり、キムチづくり等）
⇒作品づくり（竹細工、押し花、ちぎり絵、バッグインバッグ、かぎ針でできる編み物、ランプシェード、わら細工、PPバンドのかご等）
⇒人権学習は今の時代に起こっている人権課題について、幅広く学習していきたい。
⇒地域の伝統文化を学ぶ（ポテ茶）

さわやか人権文化センターだより

さわやか

2022年4月1日発行 No.330
【発行所】さわやか人権文化センター
【所在地】〒682-0602 倉吉市上米積 1074-1
【電話兼ファックス】0858-28-2017
【メールアドレス】sawayaka@ncn-k.net

センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をお寄せください。

相談

啓発

交流

お気軽に さわやか人権文化センターへ お越しください

人権文化センターでは、地域に開かれたコミュニティセンターとして、様々な事業を行います。

お気軽にさわやか人権文化センターへお立ち寄りください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

さわやか人権文化センター 職員一同

今年度の主な事業予定

毎月開催

○さわやかサロン・・・毎月1回

生きがいつくりと閉じこもり防止を目的として開催しています。おしゃべりを楽しみながら簡単な作品づくりをしたり、簡単な体操で体を動かし、健康で助け合いながら暮らしていけるまちづくりを目指しています。

○ペン習字教室・・・毎月、第3月曜日

絵手紙や日常に役立つ「書」を学びます。楽しみながら作品づくりに取り組むことで、表現し、思いを伝えることを喜び、学びます。

○みんなの楽級・・・4月～翌年3月（毎月1回程度）

人権学習や作品づくりなど、地域の皆様と活発に交流します。女性も男性も、そして若い人も、参加お待ちしております。

（内容：視察研修、各種教室、人権学習）

○手話教室

5月より開催予定、年6回

○ゆとり教室

年4回開催予定 5・7・9・11月

○高城・北谷保育園との交流

7月、11月 予定

地域住民と高城・北谷保育園の園児がふれあい、交流します。

○第36回高城・北谷解放キャンプ

7月22日(金)～7月23日(土) 予定
船上山少年自然の家

○第39回高齢者教室

10月28日(金) 淀江 浄福寺

◎第25回さわやか人権フェスティバル

12月2日(金)～7日(水) 予定

○解放子ども会リーダー研修 3月予定

○その他にも、地域成人講座や高校生育成講座等を計画していきます。

※新型コロナウイルスの感染状況により開催できない場合もあります。

地域における多文化共生社会をめざして

外国にルーツを持つ人の現状

日本にはさまざまな外国籍の人が約282万人暮らしており、総人口の約2%を占めています（2021年6月末現在 法務省発表）。鳥取県内に住む外国籍の人は4,489人（2021年12月末現在 鳥取県発表）です。日本社会の国際化が進むなかで、言語、宗教、習慣等の違いから、外国にルーツを持つ人に対する人権問題が日常生活の場において発生しています。たとえば、外国籍であることを理由に家主からアパートやマンションの入居を拒否されたり、学校では外国にルーツがあるというだけでいじめの対象となり、未就学・不登校につながったりしているケースもあります。

新型コロナ禍で

さらには、新型コロナ禍のなか、雇用契約が打ち切れ困窮状態に陥りやすい危険性を抱えている人が増えています。災害時や新型コロナ対策において、周囲の人との付き合いや日本語に堪能でない人には情報が届かず、必要な支援につながりにくいこともあります。

相手を忌避する理由とは

私たちの意識のなかに肌の色や出身国によって、その人を見下すようなことはありませんか。見下したり避けたりする理由は为什么呢。自分と同様に他者にも、一人ひとり大切な文化や慣習、それぞれの歴史があることを認識し理解しなければなりません。

みんなが考えなければならないこと

私たちは普段、自分が知っていたり理解したりしていることは、当然相手も知っているし理解していると考えがちです。そのため、相手が何に困り何を求めているかに気付かないことがあります。相手の人権を侵害されていることを見逃してしまうことがあります。

相手の立場になり相手を理解するとは、自分の当り前は相手の当り前ではないことに気付き、相手の立場に立ってものごとを考えるということです。私たちは何ができるのかを今一度考えてみませんか。



外国人観光客への差別

大阪府内のすしチェーンの店舗が外国人に大量のわさびを入れたすしを提供。「わさびテロ」とインターネットで批判が高まり、運営会社が今月2日にホームページで謝罪した。同社によると、韓国人とみられる客からすしとは別にわさびを求められることが過去にあったため、職人が事前に客に確認せず、通常より多くのわさびを入れたという。

数日後には韓国メディアが、バス会社が韓国人観光客に発券した乗車券の名前欄に、日本での蔑称「チヨン」を印字したと報道した。同社は、姓の「キム」の後に印字されていたことを認めた上で、窓口担当者は差別用語であることを知らなかったと話しているという。

さらには私鉄の車掌が日本人乗客に向け「外国人の客が多く乗車し、不便を掛ける」と車内アナウンスし、同社が「客を区別するのは不適切」として口頭注意した。

相次ぐ問題について、専門家は「外国人客急増に日本人側の意識が付いていけない」と原因を分析し「悪い評判が増幅されれば日本が旅行先に選ばれなくなる」と危ぶみ、国が国際観光振興を掲げる中、「大阪のような事態は全国で起こり得る」と指摘。「店や企業が外国の文化や考え方を積極的に学び、従業員の理解を深めるべきだ」と話している。
(2016.10.19 付新聞記事より)

外国にルーツを持つ人が抱える問題

外国にルーツを持つ人は、それぞれに母国の文化や習慣を持っています。そうした文化や習慣と日本の文化・習慣との違いや無知・無理解が要因となるトラブルや人権侵害が発生しています。

地域（生活支援とコミュニケーション）

○地域でのトラブル —習慣の違いからくる偏見や排除—

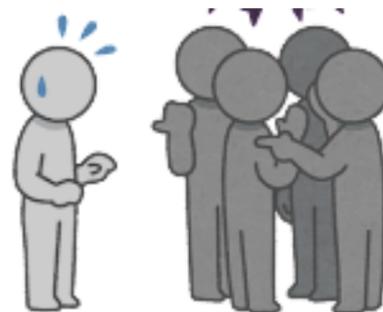
その地域の習慣と違う行動をすると悪意にとられ、「〇〇人は、他人に平気で迷惑をかける」「うるさい〇〇人」などといった固定観念や偏見が生まれることがあります。

そしてこのような偏見が根付くと、何か新たなトラブルが発生したとき、「こんなことをするのは〇〇人じゃないか」と疑いをかけ、排除や差別へ発展することもあります。受け入れる側や周囲にいる日本人の意識が問われます。

○地域での孤立 —言葉の壁、情報不足—

日本で暮らす外国にルーツを持つ人にとって言葉の壁は深刻な問題である場合があります。言葉が分からないなかで

地域の人とつながり、社会生活を送ることは容易でなく、時として孤立してしまうこともあります。県内に住む外国にルーツを持つ人のなかには、来日して数ヵ月から数年間の言葉が分からず孤立していたころのつらい体験を語る人が少なくありません。一方、地域住民の側も、外国にルーツを持つ人が自分たちと交わろうとしないことに対して不満を持ったり、不信感を募らせることがあります。



○お互いを理解し合えるために

あいさつを交わし、顔見知りになり、地域活動や交流でコミュニケーションを増やせば、文化や習慣の違う隣人を互いに受け入れ合うきっかけができます。また、お互いの困り感や生きづらさを理解し、ともに解決し合えば、より良い地域社会を築き上げることができます。



学校（教育の保障と支援）

○いじめの背景

国籍・肌の色・文化・習慣の違いや日本語が理解できない等の理由で、学校でいじめを受ける子どもたちがいます。これは大人社会が持つ国や人権に対する偏見や差異に対する不寛容さ、そして社会・学校のあり方や制度の歪みなどが子どもたちの意識や行動にそのまま反映されていると考えられます。

「いじめはだめだ」と言葉で諭すだけでなく、まず大人自身が予断・偏見を払拭し、同じ地域で暮らす住民として、外国にルーツを持つ人やその子どもたちと積極的にコミュニケーションを取り、よりよい関係を築こうとする姿勢を示すことが不可欠です。



ある地域での出来事

ある地域で、地域の行事に在住外国人が参加しないので困るといった苦情を聞いたとき、逆に「行事があることを在住外国人に話したり、誘ったりしていますか」と尋ねたら、ほとんどの場合が回覧板での情報提供しかしておらず、きちんと呼びかけがされていない、という事例がありました。回覧板は自治会に加入していないと見ることができません。また、記載してある内容を理解できなこともあります。

外国人が孤立したり地域住民と関わろうとしない背景には、言葉の問題に加えて、地域での誘い合いや声の掛け合い不足などがあるのではないのでしょうか。